中医院では病院ロビーにて常時ヘルスプロモーション活動が行われており、治療に訪れる患者や患者家族に対して積極的に情報発信が行われている。病院外でも毎年100回以上の健康講座を行っているとのこと。また、市内2か所の小学校生を毎週順次病院に招待し講義・見学、漢方薬に関する本の配布をおこなっている。

中医・西医の役割分担

西医と中医との診療分野の区分は前述したように曖昧であるが、中国においては双方の医師ともにそれぞれの領域の得手不得手をその教育課程や実務経験で理解しており、例えば消化器内科で腫瘍が発見されると、消化器外科に紹介し手術を行うように、それぞれの得意分野の疾患が発見されれば相互に紹介しあう体制が構築されている。またこれは同一診療科内にも中医と西医が在籍していることからも、診療科内でも両者互いの得意分野で業務分担しているといえよう。

ただ、鍼灸脳病科という中医が専門に行うような診療科にも西医が在籍しており、心血管科という主にはカテーテル治療を行う診療科に中医が在籍していることが分かった。それぞれの診療科の中での具体的役割は不明だが、興味深いところである。

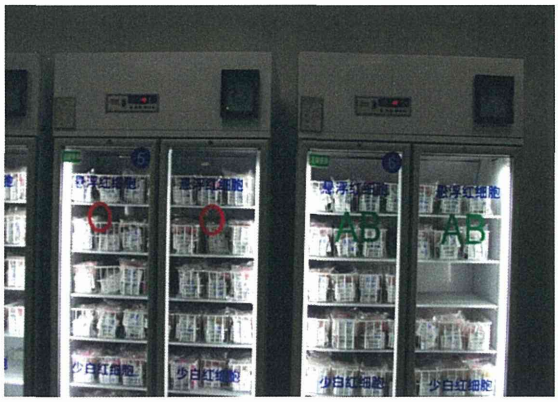
特に病院として注力している分野が鍼灸脳病科といわれる、鍼灸によって脳梗塞や脳出血の急性期を脱した患者を治療する診療科である。ここは廊下にまでベッドが置かれ常時満床状態であるとのこと。一般的なリハビリテーションに加えて鍼治療による機能回復促進が行われている。わが国でいえば回復期リハビリに鍼治療が加えられたといえる。

まとめ

中国において中医の業務・役割はその得意分野を診療範囲とする一診療科のような存在だと思われる。他病院の情報は持ち合わせていないが、少なくとも徐州市中医院という中医を冠した病院であっても西医と中医の有機的コラボレーションが行われており、診療各科に西医と中医が混在して所属している状況や、西洋医学ではその診断・治療方法に依りアプローチ法に乏しい疾患や機能回復などを中医が主に担当しているようであった。我が国の医療体制からすると、中医と西医の間には高い障壁が存在するような感覚であったが、単なる診療科間での患者やりとりというスタイルであった。

2014.02.12

血液センターの玄関スクリーン

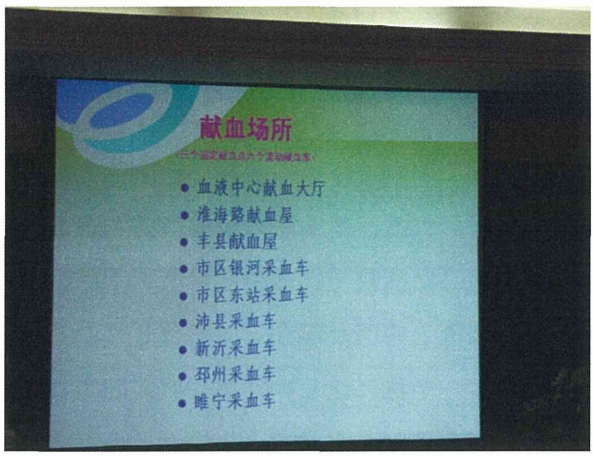


血液保管ルーム

採血ルーム

日本製の検査機械

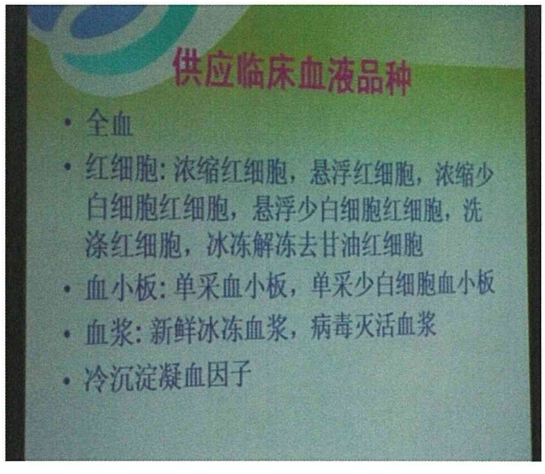
採血ベッド



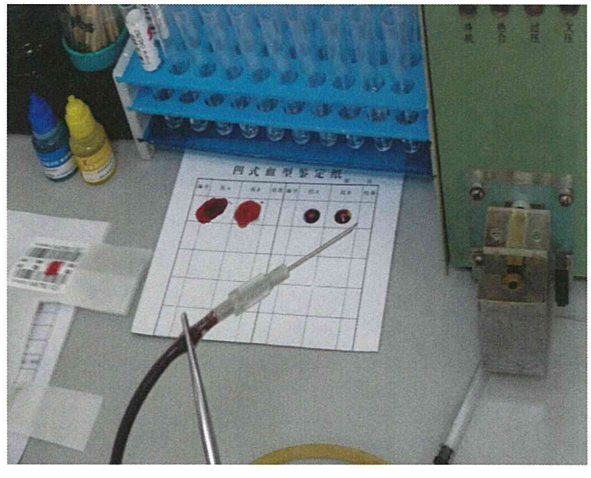
献血固定施設と移動バス

献血バス

献血屋前　大通り



製造されている血液製剤



血液型　判定

採血所

中医病院玄関（漢方病院）

漢方病院　外来待合

漢方病院の薬局

正面玄関にある炎帝の像

漢方薬の調剤

漢方病院　院長の王　心力先生

天秤を使っての計量

施灸治療

煎薬

灸の点火作業

煎薬の湿布治療

煎薬科

煎薬風呂

全身用煎薬スチームカプセル

針灸科

煎薬スチームサウナ

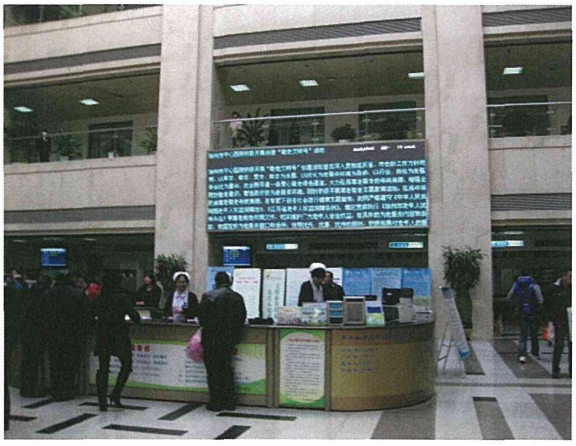
粉薬の調剤

推掌科

粉薬の袋詰め機

救急車

西洋医療の薬局



西洋病院の外来受付

内視鏡洗浄部屋

西洋病院の外来風景

院内　採血ルーム

医学部実習室１

ご協力下さった徐州市衛生局長の王文学先生（左３人目）

医学部実習室２

医学部実習室３

厚生労働科学研究費補助金　　地球規模保健課題推進研究事業

アジア諸国における血漿分画製剤の製造体制の構築に関する研究

平成 25 年度　総括・分担研究報告書

平成 26 年 3 月 31 日発行

事務局　　東京医科歯科大学大学院　医歯学総合研究科　政策科学分野
研究代表者　　河原　和夫
〒113-8519　　東京都文京区湯島 1-5-45
TEL　(03)5803-4030　　FAX(03)5803-0358
e-mail address　kk.hcm@tmd.ac.jp